



第129号

2024年12月5日発行

# 地域の会

～ 9月定例会・10月定例会 概要 ～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

第256回定例会では前回定例会以降の各機関の取り組み状況等について、質疑応答を含むフリートークを行いました。



第256回定例会 柏崎原子力広報センター



第256回定例会 柏崎原子力広報センター



第255回定例会 柏崎原子力広報センター



### 情報共有会議を開催しました

11月8日に『情報共有会議』を開催しました。県知事、柏崎市長、刈羽村長、国の代表者、東京電力ホールディングス(株)社長にご出席いただき意見交換を行いました。詳細は次号130号でご紹介します。

今後の「地域の会」定例会の開催案内…………… 第258回定例会は2024年12月4日に開催しました

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

### 第259回定例会

日時：2025年1月8日(水) 18:30～20:40  
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

### 第260回定例会

日時：2025年2月5日(水) 18:30～20:40  
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

傍聴席は1F実験室に設けます。定員は20名程度です。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <https://www.tiikinokai.jp>

## フリートーク (視察研修の感想)



第255回定例会は、前半は前回定例会以降の動きについて各オプザバーから説明を受けて質疑応答を行った。後半は、9月1、2日に実施した福島第一、第二原子力発電所等の視察研修に関して、参加した委員、オプザバーからの感想など、フリートークを行った。

### 〔前回定例会以降の動きについて〕

**Q** 立入制限区域の見直しの準備工事開始ということだが、現在の区域からどのくらい狭まるのか。ま

た、柏崎刈羽原子力発電所の敷地は福島第二原子力発電所(以下、福島第二)の3倍と聞いたが、立入制限区域も3倍か。

### 東京電力

現状では立入制限区域は敷地と同じなので敷地面積が3倍だと立入制限区域も3倍になる。

### Q

福島第一原子力発電所(以下、福島第一)の廃炉汚水対策とは何か。どのように発生するか。

### 東京電力

福島第一の1号機から3号機は燃料が溶け落ちたため、現在も冷却水を循環しながら冷却している。建屋にはどうしてもすき間があり、1号機は建屋上部の修理が終わっていないので雨水や地下水などが混入することで汚染水・滞留水が発生する。

### Q

不適合事案の報告について、IDカードを携帯していない事案が5月31日、7月4日に発生している。厳正管理について再教育を実施したというが、大勢いる協力企業の従業員にどれほど徹底されているのか非常に疑問。

### 東京電力

このような不適合事案が短期間に続けて起きてしまったことは事実。我々としては、元請企業を通じて徹底をお願いしたり個別に当該企業に教育、周知をしており、これらの活動を継続するしかないと考えている。

### 意見

大勢の方に徹底するのは難しいと思うが、こういう初歩的なミスですべてが水の泡になる。その企業全体の質に対して大きな疑問を感じる。

### 〔福島第一、第二原子力発電所等視察研修に

### 関するフリートーク〕

● 県を始めオプザバー、

● 廃炉がかなり進んでいると感心した。廃棄物は

東京電力には視察先の丁寧な説明に感謝申し上げたい。福島第二の訪問は初めて。柏崎刈羽に比べコンパクトな敷地に設置されていることに驚いた。ペDESTアル(土台)内で制御棒駆動機構を見学し、原子炉のスケールを体感できた。間近で見学できたことで廃炉に向けた作業が困難ながらも、本当に日本国内外の技術と現場力を結集したプロジェクトなのだと感じた。安全に進められることを願い関心を高く持ち続けたい。

● 粛々と廃炉作業が進んでいる印象を受けた。事故から13年が経ち、当時学生だった方たちが東京電力や協力企業の一員として従事されていることを思うと頭が下がっている。何年かかるかわからないが、核燃料を全て処分できる日が来るだろうと感じたが、その時に最終処分場は決まっているのか。早急に必要な道筋をつけてほしい。

キャスクに保管されているが、将来どうなるかはこれから考えると驚いた。処理水もALPSで処理され、残ったものは今後検討すると言われた。早めの検討・解決を望む。

● 福島原発は初めての視察。柏崎刈羽1〜5号機とほぼ同等の仕様で、いずれ来る柏崎刈羽の廃炉と重ね合わせながら見学した。作業する方は社員410名、協力企業1943名。一日あたりの入場者は950名。

福島県内出身者が全体の9割を占め、柏崎刈羽の8割に比べて高い比率であることに驚きを感じた。



した。福島第二では防護服を着て手袋をはめ、少し歩いただけで汗まみれになった。福島第一2号機のデブリ取り出し作業での初歩的ミスには落胆したが、準備段階でミスを見落とさず作業を中断できたことは立派だと思う。廃炉作業は未知の世界。作業体制を強化し緊張感を持って安全最優先で一日も早い完了を目指してほしい。

● 原子力災害伝承館では、事故当時は自分の住んでいる地域が原発から何km離れているか知らなかったという話や、被災地で医療関係の仕事をする女性が、夫に子供を託し預金通帳や生命保険証を渡すという重い決断をして自分の職場に戻ったという話を聞き、原子力防災はこのことに尽きると感じた。

● 福島第二では廃炉まで44年を見込んでいたのに、事故でめちやくちやになつた福島第一が、あと16年から26年で廃炉完了となっていることに違和感を持って視察に参加

した。福島第二では、堅実に廃炉へ向けた計画と被ばくを最小限に抑える取組をしていることを視察でき、東京電力は確実に廃炉を進められる能力があると思つた。福島第一では、滞在時間を約10分間に制限されたブルーデッキから見学したが、ちぐはぐなことばかりしている印象を持った。国が非現実的な中長期ロードマップを修正しようとしていないことが福島第一の廃炉の道を遠のかせている。

● 東京電力が関わるJヴィレッジは、東日本震災の復興の拠点、サッカーの拠点であり、地域振興や町の活力を生み出す場所として再整備されたことを知り、柏崎刈羽地域をどう元気にしていくかという視点で考えることができた。福島第一は放射性廃棄物の管理、ALPS処理水の処理方法等、高度な作業

が大規模に運営され、事故が与えた影響の大きさを改めて感じた。次の世代を担う多くの学生が視察に訪れて事故を知り、今後のエネルギーの在り方を考える機会になつていることも良かった。

● 福島第二では高レベル放射性廃棄物は基本的に燃料関係しかないと言われた。原子炉等は低レベルの中でも高い線量として処分され比較的リスクが低いこと、また、他電力とも情報共有しながら進めていることなどを聞き安心した。廃炉作業が順調に進んでいることを感じた。福島第一は、近づけないというイメージだったが、作業時間の管理、防護服等により予想できるリスクを抑えて作業ができており、大きく前進していると感じた。視察前の映像を見て、安全神話は事業者だけでなく規制する側にもあり、リスクマネジメントが形骸化したことによる失敗で、同時にそれは防げたのでは

ないかと感じている。福島第一に囚われ過ぎて他のリスクを蔑ろにしないよう、東京電力はこの経験を忘れず安全に對しての取組を継続し、エネ庁と規制庁のアクセルとブレーキがきちんと機能することが大事だと思つた。

● 福島第一、第二、Jヴィレッジは震災前、震災後に何度か視察したが、それぞれ復興が進んでいると肌で感じた。毎月の定例会で福島状況も報告いただいているが、視察で実際に自分の目で見ることによって意識も変わり、知識レベルも上がってくるように思う。



## フリートーク (前回定例会以降の動きの質疑応答を含む)

**Q** 燃料デブリ取り出しの対応は福島第一廃炉推進カンパニーが考えたのか。また、パイプの並び順の間違いに関して、東京電力も元請の三菱重工業も現場で確認していないと新聞報

【前回定例会以降の動き及びフリートーク】  
第256回定例会は、前半は前回定例会以降の動きについて各オブザーバーから説明を受けた。会議後半は質疑応答を含むフリートークを行った。



**Q** 燃料デブリの取り出し作業の人員は、例えば7月27日から29日までは60名とのことだが、同じ人たちが翌日も作業しているのか。遠隔操作室では一連の作業をリ

**東京電力** 燃料デブリを含めた福島第一原子力発電所の廃炉作業全般は、廃炉責任者以下で決定し、内容によりメーカーや国のアドバイザーもいただいている。現場作業は発注者である当社、元請の三菱重工業、以下一次、二次の会社の方々为主に取り組んでいる。東京電力、三菱重工業は遠隔操作室からカメラを使って作業全般を可能な限り確認している。今回の順番間違いに関しては識別が不足していたことが大きな反省点であり、それについては改善している。

道にあった。協力会社等の現場の意見はどの程度作業手順に反映されていたのか。

**意見** 福島第二原子力発電所を視察した際、かなり

の重装備で見学した。高

**東京電力** 7月27、28日は基本的に作業しているが、体調不良等で若干の変更はあった。遠隔操作室については東京電力並びに三菱重工業ほかが常駐し、リアルタイムで監視している。取り出し装置については、インクロージャ(燃料デブリ取り出し装置を収納し、放射性物質を閉じ込める箱)まで引き戻したため放射線の影響は低い状況下であり、装置自体も耐放射性を有している。また先端治具は、燃料デブリに一度接触しているため、今後カメラを取り換える場合は放射線量を確認したうえで作業を進めたい。

アルタイムで画面を見ながら確認・監視をしていたのか。取り出しに失敗して装置を引き上げたが、装置自体の被ばくの程度や管理はどのようになるのか。

**柏崎市** 今回、アメリカの航空宇宙企業であるスペースXの通信衛星「スターリンク」を活用して本部との通信訓練を行った。通常は地上回線を使う想定だが、地上回

**Q** 原子力防災訓練で、スターリンクを使い受付システムをオンラインで行ったと説明があった。災害時にはどのようにオンライン状況を確保するのか。

**意見** 5本のパイプをつなぐ作業は分かっているはずなのに4本しかないことに気付かないのはあまりにもお粗末な話。燃料デブリ取り出しに着手したから一つのマイルストーン(中間目標地点)に到達したと自慢げに報告するのはどうなのか。

線量下で作業される方は相当大変だろうと思う。燃料の取り出しや廃炉は相当難儀な作業だと承知している。安全第一で進めていただきたい。

線が使えなくなつた場合に備え、衛星回線を試行し、問題なく使用できたことから、多重化を図る意味で今後はスターリンクの常時設置を検討したい。

Q

**使用済核燃料の搬出や号機間輸送について、事前に一部の媒体で日時が報道された。さらに搬出日には発電所構内の運搬や積み込みの様子などが空撮されたが核物質防護上、大丈夫なのか。防護の必要があるものは隠す必要がある、その方が安心だと思つている。この度の報道について東京電力、規制庁は抗議・申し入れ、指導を行ったか。**

**東京電力** 今回の報道に関するページ上でお知らせをしている。核物質防護上、輸送終了までは輸送日や場所等お伝えできないこと、ヘリコプターによる空撮は騒音によって通信連絡に

支障を来すことがあるため控えてほしいこと、核物質防護上秘匿すべき情報が公開された場合はテロ等に加担する恐れがあることをご理解の上、取材を検討してほしいことをお知らせしたが、各テレビ局、各新聞社ともに守つているところ、守つていないところは周知のとおりである。

**規制庁**

テロ等のリスクが上がるとはない。どこから情報収集したか分からないが、テロのリスクが高まるようなことはしないしてほしいと願うだけになる。

**意見** 核物質防護の観点から逸脱したところに対して、例えば経済産業大臣や原子力規制委員長、資源エネルギー庁長官など立場のある方から

止めていただく、あるいは嚴重抗議をしていただきたい。知る権利もあるかもしれないが、これは国防に関わる問題。国民の安全を脅かすことに関して毅然とした対応をお願いしたい。

Q

**再稼働について、県は地元の合意形成に向けた検討や意思決定のプロセス等を想定しているか。県庁の中でそもそも議論があがつているか。**

**新潟県**

知事が申しているのとおり、福島第一原発事故に関する3つの検証の取りまとめ、原子力規制委員会の追加検査を踏まえた判断、技術委員会で行つていいる安全対策等の確認、原子力災害発生時の避難の課題への取組等を材料に、議論の深まりを見極めながら知事として判断し、県民の意思を確認するというのが県のスタンス。立地自治体の柏崎市、刈羽村とは柏崎刈羽原発に関する重要な問題について会談や相談をしてきている。立地自治体以外の市町村の意見は、県が責任をもって意見を聞いていく。県内部での議論については、原子力安全対策課ではこの度の国の回答をしっかりと受けとめ、防災局を中心に関係部局と連携しながら取り

組んでいく。

Q

**総理大臣や経済産業大臣が変わつても国の政策内容が変わることはないか。**

**資源エネルギー庁**

個人ではなく立場で発言を行つている。政府一体として方針を確認しており、引き継がれていく。

Q

**輸送作業で、燃料をキャスクに入れるために使用済燃料プールから吊り上げを行つている写真がある。作業員は防護服を着ているのか、それとも普通の作業服か。**

**東京電力**

使用済燃料プールにはごくわずかだが放射性物質が含まれているため、プール近くの作業員はプールの水が掛からないようアノラックを着用している。放射線量を管理しながら作業を行つている。

Q

**確率的リスク評価(PRA)モデルについて。何か事象が生じた時に「炉心損傷の危険はありません。(またはあります。)'その危険は0.1の何乗です」という説明の仕方になるのか。**

**規制庁**

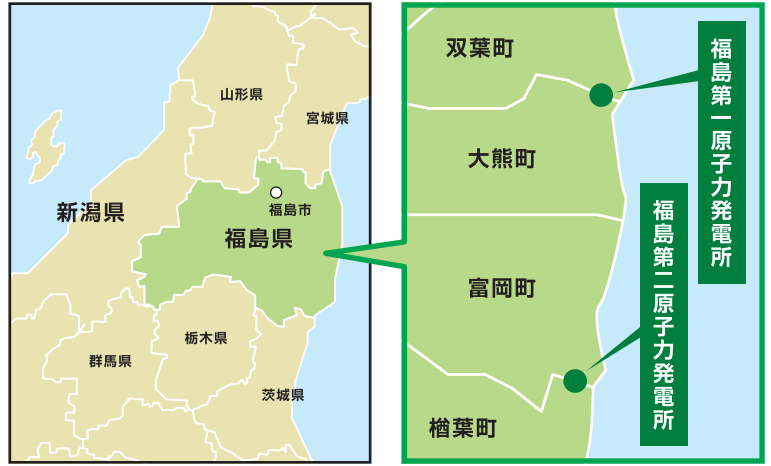
そのとおり。例えば炉心から遠く離れている海水ポンプの小さなポンプ弁なら影響も少なく、炉心に近いところであつてもしっかりと炉心の損傷を防ぐためのポンプがある、または手立てがある場合は損傷が少ない。ある場合、ない場合、さらにどのくらいの確率で発生するか、リスクが一見える化され、我々の評価の仕方も変わってくる。



## 【トピックス】

### 福島第一・第二原子力発電所等を視察しました

令和6(2024)年9月1日(日)、2日(月)に福島県の東京電力ホールディングス(株)福島第一・第二原子力発電所、Jヴィレッジ、東日本大震災・原子力災害伝承館などを視察しました。



### 【1日目】

福島第二原子力発電所では、施設概要、廃炉工程等について説明を受けた後、構内及び4号機建屋内を視察しました。廃炉に向けた汚染状況調査の進捗などの現場を確認しました。その後、Jヴィレッジに移動して、震災当時の対策拠点であった写真や現在の整備されたサッカーコート等を見学しました。

### 【2日目】

福島第一原子力発電所では、施設概要、廃炉に向けた取組である処理水の海洋放出や燃料デブリの取出し等について説明を受けた後、構内を視察しました。1から4号機が見渡せるブルーデッキと呼ばれる場所ではバスを降り、現場を確認しました。場所を移動し、ALPS処理水のサンプルも手に取って確認しました。その後、東日本大震災・原子力災害伝承館に移動して施設を見学しました。

#### 福島第一原子力発電所①

3号機建屋  
ドーム屋根が設置されている



#### 福島第二原子力発電所①

4号機原子炉建屋  
9月でも中はまだ暑い



#### Jヴィレッジ



震災当時は復興の拠点であった  
当時、目の前のサッカーコートは復旧車両で  
埋め尽くされた

#### 福島第一原子力発電所②

ブルーデッキから1～4号機を目の前にして  
説明を聞く委員



#### 福島第二原子力発電所②

原子炉压力容器の真下に立つ



#### 東日本大震災・原子力災害伝承館



原子力災害の実態や復興までの歩みなどを  
映像や被災者の声で振り返る



(三宮会長)

今年も年に一度の情報共有会議が行われました。内容については次回の「視点」で皆様にお知らせする事になりますが、各省庁の実務者、事業者のトップ、地元自治体の首長をお迎えしての意見交換は有意義な時間となりました。

現在この地に既存する原子力発電所は、新規制基準や審査をクリアし、技術的に起動できる状態にあります。私が地域の会委員に就任した10年前から見れば、この会の主旨である柏崎刈羽原子力発電所の安全性と透明性は確実に向上していると思います。

原子力利用を含めた国家のエネルギー安全保障は最重要課題の一つです。立地地域及び電力の大消費地の方々に、理解と協力を得るための更なる取組みを推進して頂きたいと思えます。

### 編集後記